

【様式】

令和5年度 学校マネジメントシート

学校名（ 宇治山田高等学校 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		自主性を尊重し、互いに協力し合い高め合うなかで、知性と教養、豊かな人間性を育み、進路希望を実現する学校
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 志を持って、自ら学び、考え、判断し、行動する生徒 ○ 豊かな人間性を備え、自らを律し、他者を思いやり協力することができる生徒 ○ 目標に向かって、失敗を恐れず、努力し、挑戦し続ける生徒
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 情熱と誇りを持ち、人間性豊かで生徒を第一に考え行動する教職員 ○ 目指す学校像の実現に向かって、やりがいを感じ、協力し、助け合いながら、ともに成長していく元気な教職員 ○ 専門的な指導力と社会性、高いコンプライアンス意識を持ち、生徒・保護者や地域の方々から信頼される教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>《生徒》 ほとんどの生徒が大学進学を希望しており、その実現のため学習活動の充実を期待している。また、クラブ活動にも熱心に参加する生徒が多く、学習活動との両立を望んでいる。</p> <p>《保護者》 上記生徒の期待に加えて、学校からの情報提供を求めている。</p> <p>《地域》 各分野におけるリーダーとしての人材の育成を求めている。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>《家庭》学校からの情報提供</p> <p>《地域》地域を担う人材の育成</p> <p>《同窓会》学校の活性化、生徒の活躍</p>	<p>《家庭》本校の教育方針・教育活動への理解と協力</p> <p>《地域》教育活動への理解と協力</p> <p>《同窓会》教育活動への理解と協力</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒一人ひとりに丁寧に指導されている。 ○ 生徒へのアンケートについて、質問の仕方や分析の仕方に工夫を加えてもらいたい。 例えば、アンケート結果を学年ごとに分析することで、学年の傾向が把握でき、学校運営の参考にもなると考える。 ○ 生徒同士が関わり合うことで、学び、力をつけていくことはたくさんある。困難なことに出会ったときに、自分の力で乗り越えていくことも大切である。 ○ 社会全体が失敗に対して厳しい目を向ける傾向にあるが、失敗を恐れずに挑戦して欲しい。 ○ 働きやすい学校づくりについて、達成できなかった項目があるため、達成可能な目標設定を検討されてはどうか。 ○ 生徒や保護者に学校の意図や方針が適切に伝わらない時もあるので、引き続き丁寧に情報発信に努めて欲しい。 	

(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 真面目で素直な生徒が多く、規律を守り、学習活動や部活動に熱心に取り組んでいます。生徒が将来社会の一員として活躍できるよう、自ら学ぶ態度や主体性を育み、一人ひとりが持つ可能性を一層引き出していく必要があります。 ○ 生徒の進路希望を実現するために、課外授業やきめ細かな進路指導等に取り組んでいますが、学校全体でより効果的な指導ができるよう取り組んでいく必要があります。 ○ 進路や友人関係等、様々な悩みを抱える多感な時期の生徒が、安心して学校生活を送れるよう、一人ひとりに応じた丁寧な対応が求められています。 ○ 学力の定着や生徒の学習状況に応じた指導など、ICT の効果的な活用が求められています。
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員は、教科指導や担任業務、各分掌や各学年の業務に責任感を持って取り組んでいます。今後もより良い教育を継続的に提供していくため、学校全体で取り組んでいく必要があります。 ○ 地域の中学校卒業生数の減少に伴い、学級数が減少しており、今後も中学校卒業生数の減少が見込まれます。こうした中で、本校の今後の方向性を検討する必要があります。 ○ 学級減により職員数が減少する中でも、教職員は教育の質を維持できるよう、やりがいを感じながら指導にあたっていますが、多忙化が課題となっています。 ○ 学校を取り巻く環境が、多様化・複雑化しており、教職員が互いに協力しながら業務を進めることが必要となっています。 ○ 生徒や保護者との信頼関係をより強いものとしていけるよう、保護者への丁寧な情報発信やコンプライアンスの徹底に取り組んでいく必要があります。

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各教科における主体的・対話的で深い学びや総合的な探究の時間、学校行事や生徒会活動など、生徒が主体となって考え、協力して取り組む活動を充実し、学力の向上とともに、主体性、社会性、協調性などの育成に取り組みます。 ○ 学習指導要領の改訂、大学入学共通テストなどに対応し、国公立大学をはじめとした生徒の進路希望が実現できるよう、授業や指導方法の研究に取り組み、学校全体で計画的な指導を進めます。 ○ 生徒が安心して学校生活を送れるよう、教育相談の充実に取り組むとともに、人権教育やホームルーム活動、学校行事等を通じて、自他を大切に作る心の育成に取り組めます。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒を第一に考え、一人ひとりを大切に作る視点から教科指導、進路指導、生徒指導、教育相談等の教育活動が継続的に進められるよう、全ての教職員への情報提供に努め、学校全体で目的や方向性を共有し、組織力の強化に取り組めます。 ○ 様々な業務や生徒の指導を教職員がひとりで抱え込むことなく、積極的に情報共有や相談を行い、互いに助け合い、支え合う環境づくりを一層進めるとともに、業務の精選や平準化などに努め、勤務時間の縮減に取り組めます。 ○ 県立高等学校活性化計画や国の普通科改革の動向をふまえながら、将来的な本校のあり方の検討を進めるとともに、生徒・保護者や地域から一層信頼される学校となるよう、コンプライアンスの確保、情報発信の充実に取り組めます。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の 充実	<p>新しい学習指導要領や大学入学共通テストの趣旨を踏まえた授業改善や指導方法の工夫、ICTを効果的に活用した学習活動の充実などに取り組むとともに、授業アンケートを実施し、組織的に改善を進め、学力の向上と自ら学ぶ態度の育成に取り組めます。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒対象の授業アンケートの実施 年2回 ○ 授業改善のための研究授業、教職員研修 2回以上 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 第2回授業アンケート結果が第1回の結果を上回る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1回実施 ○ 2回以上実施 	
キャリア教育・進路指導の 充実	<p>生徒が自己の将来とのつながりを見通しながら、目的を持って希望する進路を決定し、実現できるよう、各種ガイダンス、大学見学会、出前授業、進学希望者集会、卒業生との進路懇談会などを計画的に実施するとともに、3学年の学年会を毎週開催し、組織的に進路指導を進めます。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 卒業生等による進路懇談会・相談会の実施 3回以上 ○ 保護者向けの進路講演会等の実施 1回以上 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 目標を持って努力している生徒の割合 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2回 ○ 1回 ○ 77.2% 	
生活指導の 充実	<p>(生徒指導)</p> <p>安心して学校生活を送れるよう、いじめ等の防止、早期発見に取り組むとともに、社会の一員として、必要なマナーや礼儀などが身につけられるよう挨拶や服装指導等に取り組めます。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 定期的な校門指導と家庭との連携 随時 ○ いじめに係るアンケートの実施 学期に1回 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 遅刻生徒数 対前年度比5%減 <p>(生徒会活動)</p> <p>学校行事やいじめ防止活動などを、生徒会が主体となって企画立案、実施する取組を充実し、生徒の主体性や行動力の</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 随時実施 ○ 学期に1回実施 ○ 5.5%減 	

<p>安心して学べる環境づくり</p>	<p>育成に努めます。</p> <p>【活動指標】</p> <p>○ 生徒会による学校行事や活動の企画立案、実施 3回以上</p> <p>(教育相談)</p> <p>様々な悩みや不安を抱える生徒へのきめ細かな支援を行うため、教育相談体制の充実、個別面談の実施、生徒の支援に関わる情報の共有などに取り組みます。</p> <p>【活動指標】</p> <p>○ 個別面談の実施 3回</p> <p>○ 生徒の支援に関わる情報の共有 必要に応じて適宜</p>	<p>○ 3回以上：体育祭、クラスマッチ2回、山高祭、セーター登校試行、合唱祭、挨拶運動)</p> <p>○ 3回以上</p> <p>○ 実施</p>	
---------------------	---	---	--

改善課題

「学習指導の充実」について

- ・授業については、多くの教員がICTの活用を進める等の工夫を行っており、約85%の生徒が分かりやすい授業であると感じている。
- ・今年度、生徒対象の授業アンケートは1回しか実施できず、年度内における授業改善について検証することができなかったが、授業の進度が理解度に合っていない、目標の明示や授業の振り返りがされていない等、明らかになった課題について教職員でしっかり共有した上で、生徒の変化に対応し、理解度を高める授業改善に向け、小中学校教育から高校教育へ繋ぐという観点を加えた研修も必要である。

「キャリア教育・進路指導の充実」について

- ・各学年の進路講演会、進路ガイダンス（大学模擬授業）、校内三重大学進学説明会、看護職キャリアガイダンス等、大学教授や外部講師を招聘して、校内で進路選択を考える機会を増やすことができた。
- ・生徒一人ひとりに対して、適切な進路指導や丁寧な教科指導等を行った結果、地元三重大学に18名、三重県立看護大学に10名が合格したほか、国公立大学に50名以上の合格者が出ている。今後も生徒一人ひとりに粘り強く指導していく必要がある。

「生活指導の充実」について

- ・年間を通した登下校指導や日々の声かけといった指導を行った結果、概ね落ち着いた学校生活が送れているが、携帯電話スマートフォンの使用の違反行為等、社会で生活する上で、ルールやマナーを守るという意識付けについて、さらに指導をしていく必要がある。
- ・いじめアンケートの結果について、他者の言動で不快な思いをしたと回答した生徒が数名おり、本人や該当生徒への聞き取りの他、関係生徒への事実確認など丁寧に対応している。
- ・生徒会では、新型コロナウイルス感染症による制限が緩和される中、コロナ後の学校行事のあり方についてしっかり考え、生徒が主役となり、自ら計画し、全員が参加できる取組となるよう工夫をすることができた。また、登下校時のセーター着用について、生徒会が中心となって意見を集約し、ルールの変更について提案を行う等、生徒主体の活動にも取り組むことができています。

「安心して学べる環境づくり」について

- ・各学期1回の担任による個人面談の他、スクールカウンセラーによる相談や講演等の実施により、生徒の把握に努めている。また、支援が必要な生徒の情報を関係教職員で共有し、対応することができている。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学校組織の活性化	<p>学校全体の教育力を向上し、教育活動を効果的かつ継続的に進め、よりよい教育を提供していくため、校内の情報共有や協力体制の強化、校内研修の実施などにより組織力の向上に取り組みます。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権教育推進委員会や各学年会などでの情報共有 毎週 ○ 分掌間、学年間の情報共有の促進 随時 ○ ケース会議の開催 随時 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎週実施 ○ 随時実施 ○ 随時実施 	
働きやすい学校づくり	<p>教職員が健康で元気に生徒の指導に注力できるよう、休暇取得の促進、定時退校日の設定、部活動休養日の設定、業務の精選などを通じて総勤務時間の縮減に取り組みます。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 定時退校日の設定 月1日以上 定時退校日等に定時退校した教職員の割合 100% ○ 部活動休養日の設定 1週1日以上 予定通り休養日を実施できた部活動の割合 100% ○ 委員会や会議の精選、会議時間の縮減 1時間以内 1時間以内に終了した会議の割合 95%以上 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 時間外勤務が年360時間を超える教職員数 0名 ○ 時間外勤務が月45時間を超える教職員の延べ人数 0名 ○ 教職員の時間外勤務時間の平均 23時間以内 ○ 休暇取得日数 18.5日以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 98.9% ○ 99.9% ○ 73.3% ○ 5人 ○ 24人 ○ 15.6時間 ○ 17.0日 	
信頼される学校づくり	<p>(保護者・地域への情報発信)</p> <p>保護者や地域の方々から一層信頼される学校となるよう、学校の教育活動や魅力について積極的に情報を発信します。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者への説明会 3回以上 ○ 報道機関への資料提供 3回以上 <p>(コンプライアンスの向上)</p> <p>学校信頼向上委員会の取組や教員研修等を通じて、コンプライアンス意識の向上に取り組むとともに、教職員が一人で</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3回以上 ○ 3回以上 	

	<p>悩みや不安を抱え込まず、助け合い支え合う学校づくりを進めます。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校信頼向上委員会 学期に1回以上 ○ コンプライアンス研修・ミーティングの実施 学期に1回 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 不適切な事案の発生件数 0件 	<ul style="list-style-type: none"> ○学期に1回以上 ○学期に1回以上 <ul style="list-style-type: none"> ○1件 	
--	---	---	--

改善課題

「学校組織の活性化」について

- ・人権教育委員会や学年打合せ、進路検討会等を実施し、教職員でしっかりと情報共有を行うことができています。しかし、委員会や打合せに要する時間が非常に多くなっており、ICTを活用した有効的な情報共有等、対策を検討する必要があります。

「働きやすい学校づくりについて」

- ・会議時間の削減や業務の見直し、勤務時間の振替などを行ったが、教職員数の減少で、一人ひとりの教職員の業務負担が増加しており、総勤務時間の縮減目標は達成できなかった。これまでの慣例にとられることなく、抜本的な業務の精選等、教職員の働き方をしっかり見直す必要がある。

「信頼される学校づくりについて」

- ・学校ホームページの更新を随時実施するとともに、令和4年度にインスタグラムを立ち上げ、継続した情報発信に努めている。一方、報道機関への情報提供については、十分に実施できなかった。
- ・メールアドレスの漏洩等、業務上のミスによる不適切事案が発生したことを受け、コンプライアンス研修等をさらに充実し、不適切事案の再発防止等に取り組んできた。今後も教職員のコンプライアンス意識をさらに向上させ、学校の信頼回復に努める必要がある。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人一人の進路希望を実現する方法について、丁寧に探りながら実施しており、県内の国立大学への進学も実現できている。 ○学校訪問時には、しっかりと挨拶できたり、気軽に声をかけてくれたりする生徒が多く、落ち着いた学習環境であるように感じる。 ○入学生が定員に満たなかった原因は学校の取組だけではなく、この地域全体の学校配置にもあると考える。しかし、地元大学への進学率、医療看護系や教育系への進学実績等の傾向など、学校の特色をさらに中学生にアピールし、宇治山田高校への進学希望者を増やしてほしい。 ○働きやすい学校づくりについて、現実的に達成できない指標がある。達成可能な目標設定としてはどうか。
----------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業アンケートや学校生活アンケートの結果を考察し、各学年の生徒の傾向をつかみ、学習評価の改善や授業の工夫などに組織的に取り組む。 ○ 中高の継続性を意識し、よりわかりやすい授業づくりに取り組む。 ○ キャリア教育や探究活動を進め、地域との連携を深める。 ○ 生徒会活動や学校行事など、生徒の主体的な活動をさらに充実させる。
---------------------	--

学校運営につ
いての改善策

- 働きやすい学校づくりにつながるよう、業務内容の見直しを進める。
- 地域や中学生とその保護者等に、学校の教育活動をより理解してもらえるよう、ホームページ、インスタグラム等での情報発信や報道機関への情報提供を行う。
- 学校の特色が伝わるよう、中学生やその保護者向け学校説明会等を充実させる。